

当院で実施する研究に対するご協力をお願い

課題名

当院における心臓リハビリプログラムおよびクリニカルパス運用による効果の検討

この研究は、通常の診療で得られた記録を使って行われます。このような研究は、国が定めた指針に基づき、対象となる患者さまのお一人ずつから直接同意を得るかわりに、研究の目的を含む研究の実施についての情報を公開することが必要とされています。研究結果は学会等で発表されることがありますが、その際も個人を特定する情報は公表いたしません。

1. 研究の対象

2018年4月より同年7月まで、および2019年4月より同年7月までに和泉市立総合医療センター循環器内科より心臓リハビリテーションの処方があった患者を対象としています。

2. 研究目的・方法

日本循環器学会の急性・慢性心不全診療ガイドラインによると、多職種チームによる疾病管理プログラムは、生命予後やQOLの改善に有効であり、多職種チームが関わる包括的心臓リハビリテーションを積極的に行うことが効果的な疾病管理につながるとされています。また、急性冠症候群ガイドラインでは、クリニカルパスを用いた急性期心臓リハビリテーションが推奨されており、発症早期からの超急性期リハビリテーションを行うことが退院後のQOLの向上に繋がるとされています。高齢心筋梗塞患者の早期運動療法が入院期間を短縮し、再入院の回数を減らし、医療費を減少させることも報告されています。

心臓リハビリテーション学会からは、2017年に生命予後改善、再入院予防、身体機能低下予防を目的とした、心不全患者への心臓リハビリテーション標準プログラムが作成され、多くの施設で活用されています。

このように学会からは、心臓リハビリテーションには、早期からのシステム化された疾病管理を行うことが重要と打ち出されていますが、当院には、2019年3月までは心臓リハビリテーションに関するプログラムおよびクリニカルパスが存在せず、介入基準が明確でないため、早期介入が困難であり、未介入のまま退院する患者さんもいらっしゃいました。

そこで、2019年4月、当院リハビリテーション科において心臓リハビリテーションチームを立ち上げ、リハビリテーションプログラムおよびクリニカルパスを作成し、運用を開始することとしました。この研究では、心臓リハビリテーションに関して、リハビリテーションプログラムおよびクリニカルパス運用前と運用後の患者を比較し、リハビリテーションプログラムおよびクリニカルパスの導入が、心臓リハビリテーション介入患者さんの入院経過に与える影響について調査いたします。

この研究は、施設院長承認後から2020年7月まで実施する予定です。

3. 情報の利用拒否

情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんのご家族等で患者さんの意思及び利益を代弁できる代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、「5. お問い合わせ先」までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

4. 研究に用いる情報の種類

年齢、性別、診断名、心臓リハビリテーション処方までの日数、入院日数、集団心臓リハビリテーション開始までの日数、検査値（BNP、EF）等

5. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：和泉市立総合医療センター

所属・職位・氏名：リハビリテーション科・理学療法士・當尊 哲也（研究責任者）

住所：〒594-0073 大阪府和泉市和気町 4-5-1

連絡先：0725-41-1331

（2020 年 1 月 6 日作成（第 1.1 版））